

# B-ism

NO.3

佛教大学

佛教大学広報誌  
mokuji

- 2 巻頭特集 Special CROSS TALK
- 6 「B-L.L」研究報告
- 8 hot-TOPICS. 大学の動向
- 12 輝き Close Up
- 14 学生編集室の窓
- 16 「密着！ 野間ゼミ」
- 18 hot-TOPICS. 大学の展望
- 20 Listen UP—OB・OG訪問  
Favorite 「先生のお気に入り！」
- 22 B-Information

## B-ism

NO.3

発行日  
2011年(平成23年)12月12日

発行者  
山極 伸之

編集者  
広報委員会

編集・発行  
佛教大学広報課  
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96  
TEL 075-491-2141(代表)  
www.bukkyo-u.ac.jp/  
www.bukkyo-u.ac.jp/mobile/nyushi/

撮影場所 瀧光庵



巻頭特集 | スペシャル対談  
Special CROSS TALK

# 患者と縁を結べる 看護師養成を目指す

佛教大学保健医療技術学部教授(看護学科長就任予定)

## 日隈 ふみ子

Hinokuma Fumiko

総合人間研究所・わらじ医者よろず診療所所長

## 早川 一光

Hayakawa Kazuteru

今春、JRと地下鉄の「二条」駅前にオープンした佛教大学二条キャンパス。ここをメインキャンパスとする保健医療技術学部看護学科が来年4月に誕生する。看護学科長に就任予定の日隈ふみ子、同学部教授が、京都で医療に長年携わってきた総合人間研究所・わ

らじ医者よろず診療所所長の早川一光さんを京都市右京区のご自宅に訪ね、対談した。歯に衣着せぬ直言と独特のユーモアで知られる早川さんは87歳の今もラジオや講演で活躍、自宅で医療相談にも応じている。和やかな雰囲気の中にも厳しいアドバイスも飛んだ。

### 医師と看護師は対等のパートナー

**日隈** 本日は京都で長く地域に根差した医療に携わってこられた先生に新設の看護学科の教育についてお話を聞きたくて、お邪魔しました。よろしくお願ひします。

**早川** まず佛教大学に看護学科ができるという聞いて、

「何を今さら」とびっくりしました(笑)。

**日隈** 佛教大学の看護学科は確かにモタモタした感はありませんが、それだけにさまざまな問題点もちゃんと調べたうえで、幅広いカリキュラムや人としての教育を準備することができたという自信は、先生にとっての看護師という存在、どういう存在でしょうか。

**早川** 医師と看護師は対等な関係のパートナーです。患者さんに向き合っているチーム医療が大切だと思っています。京都には、昔から医科大学を含めてたくさん看護士さんの養成をするところがありましたが、医師にとって都合のいい看護師を養成するという傾向があったように思います。医師中心の考え方ですね。私は、第二次世界大戦の時、たまたま医学部にいて徴兵免除で生き残ったんです。偶然、ひょんなことで生き

残った。他の学部に行っていたら死んでいただいでしょう。人の命というのは、ある意味こんなものだと思います。

**日隈** 先生にとって大きな体験だったんですね。

**早川** 人というのは自分で生きていくのではなくて、たまたま生かされているというの気がついたのが、あの敗戦でしたね。それまで「天皇陛下万歳」という一途な教育を受けたわけですが、それは少しおかしいとも気が付かれました。敗戦で羅針盤を失った船のように日本がなっているときに、デモクラシーというものが入ってきて、目がくらむような輝きがありました。

民主主義ですが、それは何かと言ったら住民が主人公であるということです。医療でも、医者が主人公ではなくて、患者が主人公です。病気というものは医者が治すのではなく、自

分が治すということです。地域で見れば、自分たちの健康・体は自分たちで守るということ。自主、自衛という考えで、その上に共生、共に生きるということが来るのだと思います。

**早川** 僕は、大学で学生自治会をつくったんです。学生が勉強できる環境をつくらう、また、学生が「自分でこんな医者にならう」「医者とは一体何者なんだらう」ということを考えるのが大切だと思います。教授に「人間の体はこうなってますよ」と教わって、それを覚えて答案用紙に書いて合格なんていう教育は

ダメです。教える側の事情ですべてが決まってしまうのはおかしいと思いたした。

### 学び続ける姿勢が大切

**早川** あなただから言うんですよ。僕が当時学んだのは自治です。学生が自分で

学ぼう、セルフコントロールで勉強しようというような学科にしてほしいからです。佛教大学の旗のもとに全国から、自発的に志を持って勉強しようという人が集うようにしてほしいです。看護師免許を取ったら食いはぐれがないとか、助産師の免許を取ったら一生食べていけるとかいうだけの人は佛教大学の看護学科には来ないでくださいということですね。

**日隈** 同感ですね。

**早川** でも、日隈先生はそんなことを言ったらあきませんよ(笑)。

**日隈** いえいえ。私も免許を取ることを目標にするような教育はしたくありません。国家試験があるのには試験に通ることが目的になってしまっている傾向もなしとしますが、国家資格を取ることは通過点であるということを見、そのあとのことを考え

### 正座ができて、縁を結べる看護師を

**早川** 僕は、運転免許を取るための教習所のような大学は嫌ですね。佛教大学では看護師となる教育をする前に、人間としてどうあるべきかという教育、人間教育をしてほしいと思います。そうでないと、患者のためを思って行動できる看護師は出てこないですよ。実は知り合いの佐藤真隆さん(元佛教大学四条センター長)に「どんな看護学科にするの」と聞いてみたら、三つのことを言われました。一つ目は「正座がで



早川一光(はやかわ・かずてる) 1924年、愛知県生まれ。京都府立医科大学卒業後、京都市上京区の西陣健康会堀川病院の創設からかわり、院長、理事長を務めた。1980年に「わらじ医者京日記〜ボケを看つめて」(ミネルヴァ書房)で毎日出版文化賞を受賞。翌年この本を原作にNHK連続ドラマ「とおやんせ」が放映された。2002年から、自宅で「わらじ医者よるす診療所」を開設。また「総合人間研究所」所長として講演活動もおこなっている。KBS京都ラジオで「早川一光のぼんざい人間」が放送されている。

きる看護師」の養成です。

やっぱり僧籍を持ってらっしゃるから言うことが違いますね。大賛成です。二つ目は「病気の人に最後まで寄り添える看護師」。最後が「縁側に座る看護師」の養成を目指すことでした。これもいい言葉です。

「縁」というのはそういうものか、と思いました。「御縁」という言葉がありますが、住むところと庭とが直接つながるのではなくて、ちょっとした「遊び」の部分、その上に座る。つまり縁を結ぶことのできるような看護師さんという意味なんじゃないしょう。

「来てくれ来てくれ」って言われますよ。

**日隈** 深いですね。これは大変だと思います。

**早川** 教員の教育には私が行きますよ(笑)。僕は50年間、一つの地域で診療してきましたからね。高血圧症や糖尿といった病気を診続けたんじゃないかって、そこに住む人たちを診てきたんです。30歳だった女性が、80歳になるんですから。あんなおばさんが、こんな生活をして、そんな病気になるって、そして息を引き取ったということを診てきたんです。逆に言うと、こんな死に方をした人は、こんな暮らしをしていたん

**日隈** ありがとうございます。

す。さらに、早川先生がおっしゃったように、私は教員がこういう学生をつくりたいというよりも、学生が自ら考えていける学科にしたいと思います。「今の若者は……」というようなことをよく聞きますが、今の学生だからこそ持っている良い所もあります。教員は学生のそうした所に注目していかなければなりません。教員が学生に寄り添う教育を進めたいのです。看護学の学びを通して、自分が教員にケアされた、見守られたなどの体験があれば、患者さんにもそのよう

だ、と分かります。歌や踊りが好きな人はボケない人が多いとか……。だから、相談にも乗れます。**日隈** それはすごいことですね。**早川** 看護師になるには実習が大切です。どこの病院にお願いするんですか。

**日隈** 京都市の多くの病院にお願いしています。済生会京都府病院、京都大学医学部付属病院、先生のいらした堀川病院をはじめ、社会保険京都病院、十条リハビリテーション病院、第二岡本総合病院、西陣病院、丸太町病院などにお願いしているところですよ。みなさんが好意的でい

に接すると思います。1学年65人という少人数教育です。その学生に合った教育ができると思います。

詰め込みではなく、文系学部もある総合大学の強みを生かして幅広い教養も身に付けた看護師を育てたいと思っています。

**早川** でも、実際には難しいですよ。多くは幼稚園から高校まで競争をさせられて、「なぜこうなっているのか」と考えるより、「こうなんだから覚えときなさい」という教育を受けてきています。マニュアルみたいに覚えたら、成績がよくなるという教育を受けてい

らっしゃいまして、感謝しております。堀川病院では、訪問看護の実習をさせていただけます。実習は大切にしていきたいと思っています。実習が始まると、どうしてもそれに明け暮れてしまうところがありますので、その間に自らを振り返る時間も設けようと思っています。

**早川** 一つ提案があるんですが、実習を一度お寺さんでもやってみたらどうでしょう。そして、檀家のみさんの健康調査のようなことをしたら、いい勉強になりますよ。東北の東日本大震災の被災地にも派遣したらいと思います。

るんです。厳しいことを言いますが、佛科大学でも、第一志望の大学に失敗して来られる子どもさんがおられると思います。それを、東大でも、京大でもなく、佛科大学に来たいと思うようにしないとダメですね。水谷幸正先生(学校法人佛教育学園前理事長、佛科大学元学長)ら先達の思いは熱かったですよ。教員も必死にならないとできないです。まず、教員から鍛えないといけません。ちゃんと学生を叱れる教員を育ててほしいですね。

**日隈** そうですね。教員が一人一人の学生を把握して、支援するということができないと、ちゃんとした意味で叱れませんから。先生の書かれた本を読ませていただくと、常に相手の立場で考えておられるのがよく分かります。第一志望ではなかった学生にも「佛科大学に来てよかった」と思われるような学生とのかか

**日隈** いい発想だと思います。お寺ではありませんが、本学では一回生で京都の南丹市美山町に入って住民の方々と交流する「ふれあい実習」を計画しております。いろいろな年齢層の方と出会って、多様な価値観を学んでほしいの思いからです。医療、看護というものも、最後の部分では患者さんとの信頼関係だと思います。今日は、先生が患者さんに信頼されてきたということを強く感じ、とても勉強になりました。

**早川** 信頼関係ということね、例えば往診に出たときに「あれっ、この近くに以前診たお家がある」と思い出して立ち寄るんです。「元気にしてるか」と声をかけると、「元気ですよ」と言ってくれる方ももちろんいますが、中には「えっ、今先生を呼ぼうと思っていたところなんです。ど

わり方を教員はしなければなりません。**早川** そうです。成績表が5ばっかりで、マルバツ式の試験が得意というような学生を集める必要はありません。何度言っても「分からへん」というような子にこそ、教えてほしい。日隈さんは「そういうものにわたしはならない」と知っていますか。

**日隈** 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩ですね。

### 「雨ニモマケズ」の詩に原点

**早川** そうそう。「西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い 南に死にそうなる人あれば 行ってこわがらなくてもいいといい」ですよ。そして人に「褒められもせず 苦にもされず 素晴らしいものに わたしはなりたい」。ここに僕は人間の原点があるように思います。そんな看護師が卒業していったら、全国の病院・医院から



うして分かったんですか」とびっくりされることもあるんです。「思っただけで来てくれはるなんて、仏さんみたいなお医者さんや」と……。たまたま寄っただけなんです。その時には、ええ格好して「うん、ワシには分かるねん」と言っときます(笑)。でもね、「あの人はどうしているかな」と思いやることこそが仏の心なんです。そうした気持ちで自然に持てる看護師さんを育てていこう。

**日隈** そうやって信頼が生まれていくんですね。今日はいい話を本当にありがとうございました。ま



日隈ふみ子(ひのくま・ふみこ) 京都大学医学部附属助産師学校卒業。立命館大学大学院社会学研究科応用社会学修士課程修了。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得後退学。北里大学病院に助産師として勤務後、看護学教育、助産学教育に携わる。06年からは国際医療福祉大学大学院教授、日本赤十字北海道看護大学教授などを経て現職。専門は母性看護学、助産学。著書に「産む産まない産めない〜女性のからだと生きかた読本」(講談社現代新書・共著)など。

# 「子どもたちの自尊心を育てる」

## 人間形成に役立つ図画工作・美術科教育の在り方を研究する

教育学部教育学科 講師

### 竹内 晋平



「いじめ」や「不登校」、また学校になじめない「小1プロブレム」など小学校教育が抱える課題は多い。そうした問題に、自分を大切に作る「自尊心」をキーワードとして、図画工作・美術科教育の改革に取り組んでいる教育学部教育学科、竹内晋平先生に実践的な研究内容を聞いた。

### 美術教育の目的を見直す

小学校の教諭を13年勤めただけに、目の前にいる子供たちの成長に役立つ研究をしたかったという。

「図画工作・美術の授業というのは、子どもたちが上手に絵を描いたり造形物を作ったりするという部分に主眼が置かれていたように感じます。」

そうした教育も必要だが、

竹内先生はより世界を広げて、美術が人間形成にどう役に立っているのかという視点に立っている。「小学校では、図画工作だけでなく、算数も体育も教えていましたから、トータルな人間形成というところに心が向いたのだと思います」と語る。

小学校での「いじめ」や「不登校」などについて、問題が起こってから対処するケースが多いが、普段の授業の中

で何ができるかが大切だという。注目したのが、最近の子どもたちは、自らを大切に作る「自尊心」が低くなってきているという調査結果だった。自分を大切に思えば、他人も大切にすることに繋がる。

図画工作の授業というところ、極端なことをいうと、教室の後ろの壁面にどんな作品を並べるかという教育だった面がないとは言えません。

「図画工作科で何ができるのかを、小学校教諭のときにはいつも考えていました。そこから生まれた授業でした」と話す。複数科目を教える小学校教諭ならではの発想の具

### 美術のための美術ではなく

具象彫刻が専門。今も自宅で作成活動が続け、日展に何度も出品している。繊細さを感じさせる風貌からは、彫刻家とは想像できない。「海外での国際学会などで『彫刻が専門です』と自己紹介すると、『信じられない。手を見せてみる』と言われました」と笑う。子どもたちをテーマにした作品から、裸婦像までさまざまなブロンズ像を制作してきた。京都や東京の街路にも作品が設置されている。

今後は、美術教育の研究から、美術そのものの研究にもフィールドを広げたいという。「美術が美術のために何ができるかではなく、美術が人のために何ができるのかを研究したい」という。日本

で美術館というと、展覧会をするというのが主流ですが、米国では障害のある人に対して治療に役立つプログラムや、低所得者向けやマイノリティ向けの企画など、具体的に社会に役立つ実践活動が盛んです。」

日本の美術界でも、東日本大震災以降に社会に有用な美術という議論が盛んになってきたという。「阪神大震災のときは、文化財や美術品をいかに地震の被害から守るかという耐震などの議論が多かったと思います。それも意味はありますが、今回の震災では、人のためにという議論が真剣になされています。」竹内先生がずっと考えてきたことに時代が追いついてきたのかも知れない。

竹内先生は「また模索を始めたところですが」と前置きしながら、将来の研究についても熱心に語る。「子どもたちが作品を作った時に、親がどうかかわれるか、つまり子どもが美術を通して大人の美術への関心に何らかの影



竹内 晋平(たけうちしんぺい)  
1973年、広島県生まれ。1996年、京都教育大学美術学科卒業。京都市立西京極小学校、同鷹峯小学校、京都教育大学付属京都小学校教諭を経て、2009年から現職。この間に京都教育大学大学院教育学部教育学科教育専攻修士修了。専門は美術科教育、彫刻制作。2008年に「美術教育学」奨励賞(美術科教育学会)を受賞。数多くの研究論文のほか、著書に「図画工作科教育の創造」(共著)。



響を与えられないかと考えています。学校から保護者に、保護者から地域にという形で美術というものがどんどん広がってほしいと思います。それも単に美術が広がるということよりも、社会にとって美術がどう役立っているのかという視点で研究したいと思います。」

日本ではスポーツがようやく地域に根付き、コミュニティでクラブや大会なども行われている。竹内先生の目指すところは、「生涯スポーツ」のように、「生涯美術」も一般的な嗜みになる、そんな心豊かな日本だという。

# 開学100周年関連事業の展開

## ありがとうプロジェクト

2012年の開学100周年を迎えるにあたり、『感謝—ありがとう—』をコンセプトとして、今まで言えなかった感謝の気持ちを伝え、「ありがとう」を広げる『ありがとうプロジェクト』事業を進めています。プロジェクト1年目は、在籍時に言えなかった先生方への感謝の気持ちを伝える『先生ありがとうプロジェクト』を開催し、全国から寄せられた約7,000通のメッセージから、リーフレットを製作し、近畿一円の教育機関に届けました。

そしてプロジェクト2年目の今年も、「ありがとう」で、福祉・医療を元気にする「を」をテーマに、「福祉・医療に係わる「ありがとう」を集め、広めていくこと、また福祉・医療機関に従事されている皆さまを元気にしよう」という目的で、本学学生が直接福祉・医療現場の皆さまにインタビューさせていただき、そこで伺ったリアリティあるエピソードを集め、冊子にしてお届けする予定です。また、昨年と同様に開学100周年記念サイト上においても公開を予定しています。

ありがとうの多い人生は、いい人生だ。

「佛敎大学開学100周年 先生ありがとうプロジェクトサイト」



2012年に開学100周年を迎える佛敎大学では『感謝—ありがとう—』を「コンセプト」にさまざまな記念イベントを開催してきました。たくさんの方々を支えられ辿ってきた100年の歩みをしっかり振り返り、新たな100年に向かって、これからも皆さまとともに歩んでいきたい。そんな節目の年を今後も引き続き多彩なイベントで盛り上げていきます。

## 「ぶったん缶バッチ配付キャンペーン」実施

開学100周年記念イベント「ぶったん缶バッチ配付キャンペーン」を、平成23年6月6日(月)・7日(火)の昼休み、紫野キャンパス中庭および二条キャンパスの特設ブースにおきまして実施いたしました。両日は、学生プロジェクトメンバーおよび「ぶったん」の参加のもと、オリジナル缶バッチの配付とアンケートを実施し、学生・教職員あわせ合計975名の参加がありました。

なお、アンケートの結果、「今後あったらいいな」と期待する100周年記念グッズについては、「タオル」の要望が圧倒的に多く、次いで筆記用具や日用品の割合が高く見られました。本結果を受け、早速オリジナルタオルを製作いたしました。

今後もアンケート結果をもとに、その他グッズについても商品化できるよう企画推進させていだけ予定です。アンケートにご協力いただきました学生、教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。



オリジナルぶったん缶バッチ

## 『全学まちピカ☆大作戦』の開催

開学100周年記念イベント地域貢献事業の一環として、日ごろお世話になっている地域の皆さまに、開学100周年のキーコンセプトである『感謝—ありがとう—』を具現化すべく、『全学まちピカ☆大作戦』と題した、大学周辺地域の清掃活動を10月9日(日)に開催いたしました。

当日は、オリジナルTシャツを着用した学生を中心とする参加者約600名が、開会式終了後、午前10時から1時間に行われ、紫野キャンパスおよび岩倉キャンパス周辺地域の清掃活動を行い、ゴミ袋(45リットル)70袋分のゴミを集めました。

また、11月6日(日)午前中、京都市主催の『世界の京都・まちの美化市民総行動』へ楽しくきれいを広げよう、京都・まち美化大作戦にも、学生・教職員合わせて約30名で参加いたしました。今後も継続して、まちの美化活動を企画推進していく予定です。



世界の京都・まちの美化市民総行動での清掃活動



紫野キャンパス周辺地域の清掃活動

## カウントダウンボード除幕式

本学の創立記念日である、10月23日(日)に紫野キャンパスにおいて、創立記念式典の後、開学100周年カウントダウンボードの除幕式を開催いたしました。

カウントダウンボードは、本学が開学100周年を迎える来年の創立記念日(2012年10月23日)までの1年間、紫野キャンパスおよび二条キャンパス1号館エントランス内に設置し、カウントダウン表示と、本学への来訪者の皆さまに、本学が開学100周年を迎えることの周知や学内での機運の盛り上げを目的としております。

本学にお越しの際は、ぜひご覧ください。



カウントダウンボードを披露するぶったん

## オリジナルグッズ販売会の開催

鷹陵祭とホームカミングデー開催日の10月30日(日)に、期間限定・数量限定の本学オリジナルグッズ販売会を紫野キャンパス内特設ブースにて開催いたしました。

なお、当日の売り上げの50パーセントを被災地支援として、日本赤十字社を通じ義援金として寄付させていただきました。

来年には、学内店舗において、オリジナルグッズを販売開始する予定です。購入希望の方は是非お求め下さい。

●詳細は、開学100周年記念サイトでご案内いたします。



ご当地キュービー 佛敎大学バージョン(陸上・野球)

スクールバス特注トミカ

### 総合研究所公開シンポジウム シリーズ 今問われる人間 東日本大震災シンポジウム —智者のふるまいをせずして— 開催

以下の日程にて、東日本大震災に関連した総合研究所公開シンポジウム「今問われる人間 —智者のふるまいをせずして—」を開催しました。

日時：平成23年10月22日(土)  
場所：本学四条センター  
時間：18:00～20:40  
参加者数：100名

開催に先立ち、震災で犠牲になられた方々への哀悼の意を表し、黙祷が捧げられました。その後、榎本福寿総合研究所長より、今回東日本大震災シンポジウムを開催するにあたっての趣旨説明が行われ、本学の建学の理念である仏教精神、とりわけ法然上人の一枚起請文の教えを、直面する課題に取り組む際の一つのしるべとしました。

次に山極伸之学長と藤堂俊英仏教学部長より挨拶があり、藤堂学部長からは今回のシンポジウムの基幹学部である仏教学部を代表して、東日本大震災への学部からのメッセージが報告されました。

その後基調報告に移り、宮城県塩竈市の雲上寺副住職である東海林良昌氏より「被災地での支援活動と私の心」と題して、今回の東日本大震災で自ら被災されながら、被災寺院や避難所、仮設住宅の支援活動を行う中で、出会った方々とのふれあいや、自身の心の状態、読経ボランティアを通じて感じた寺院の可能性等についての報告がなされました。引き続き、神戸市の徳本寺住職である吉水幸也氏より「ボランティアに出来る事、出来



ない事」と題して、16年前の阪神・淡路大震災の被災後より本格的に行っているボランティア活動について、被災者支援のために出来ることとして、NGO・NPO団体同士が横のつながりを持つことの重要性等が報告されました。

次に、京都新聞総合研究所特別理事の吉澤健吉氏のコーディネートにより、東海林氏・吉水氏の基調報告を基に、山極学長・藤堂仏教学部長も加わってのパネルディスカッションが行われました。仏教者の立場で震災から何を学びどういう支援を行えばよいのかといった点が討議され、本学として支援活動への具体的な取り組みをどうするかといった話へ展開しました。山極学長からは、現在本学がこれまでに培ってきた各学部の専門性等のあらゆる教育研究資源を活用し、様々なボランティア活動で未曾有の震災に対応していく必要性があるとともに、ボランティア等に参加できない学生に対しても、過去・現在に起こった災害の教訓を明確に伝え、将来に直面するかも知れない危機に適切に対応できる力を身につけてもらうことも大学の使命であるとの説明がありました。

当日は、参加者から多数質問も寄せられ、このテーマでのさらなる学際的研究の深まりと発展を期待させるものとなりました。

なお、この東日本大震災シンポジウムは、今後学科持ち回りで開催する予定です。



ホームカミングデーの様子

また、入賞団体代表者さまに対して、本学と同窓の架け橋となっていたいただき、さらには、本学と社会をつなげていただきたいとの願いを込め、『鷹陵大使』の「任命状」を授与させていただきました。ご参加いただきました同窓の皆さま、ご協力ありがとうございました。

## 6

### 『佛大OB・OG 数珠つなぎ合戦』表彰式 ならびに鷹陵大使任命式

職域同窓組織の確立、ホームカミングデーの活性化を目的として、各種クラブ・サークルのOB・OG団体の同窓生の皆さまを対象とするイベント『佛大OB・OG数珠つなぎ合戦』をHP上において実施いたしました。

本イベントの内容は、エントリー（参加申込）いただいた各種OB・OG団体（クラブ・サークル・ゼミ）ごとに、Web上において名簿の登録者数（本学HP上の名簿入力フォームから登録）を競うものです。

エントリー団体は26団体で、個人の登録を含め、登録締切日の9月30日までに、346名の同窓の皆さまが登録していただきました。結果につきましては、以下のとおりです。

- 結果順位
- 1位 弓道部OB・OG様
  - 2位 バスケットボール部OB・OG様
  - 3位 アメリカンフットボール部OB・OG様



佛教学部ホームページ  
URL: <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>



2011年ホームカミングデーの記念品



鷹陵大使任命式

## 8 記念サイト開設

開学100周年の記念サイトをオープンいたしました。各種100周年記念関連事業や100周年記念イベント、グッズ情報などを発信してまいりますので、よろしくお願ひいたします。



URL: <http://www.bukkyo-u.ac.jp/100th/>  
本学サイトよりお進みください

## 7

### 感謝・ありがとう祭典 『園部キャンパス祭り』の開催

100周年記念イベント「地域貢献事業の一環として『感謝 ありがとう祭典』園部キャンパス祭り」と題した文化、芸術、スポーツの内容を盛り込んだ交流イベントを12月3日(土)に開催し、日頃お世話になっている地域の皆さまが楽しんでいただけるようステージイベントや模擬店・物産店、野球教室、文化講演会、落語など様々なイベントが開催されました。当日朝の雨天によりフリーマーケットは中止となりましたが、その後天候も回復し、地域の皆さまをはじめ学生、教職員で賑わいました。

ご来場ならびにご参加いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

開催日時 12月3日(土)9時30分～16時30分  
開催内容 ステージイベント、野球教室、模擬店・物産展、文化講演会  
(講師：小林良正上人・良正庵主)、落語(笑福亭鶴一師匠 他)



### 「京都市スポーツ賞」を受賞 フィギュアスケートで

「大きなリンクを一人で自由に使えることが最大の魅力です」。

第82回日本学生氷上競技選手権大会（昨年1月開催）の女子Cクラスで優勝を飾り、「京都市スポーツ賞」を受けた。今年の同選手権は、足と腰を痛めて棄権も考えたが、それでも同クラス3位に食い込んだ。

演技中は自分だけにスポットライトが当たるフィギュアスケートの気持ちよさが敵しい練習を続ける心を支えている。小学校5年でスケートを始めた。家の近くに当時、醍醐スケートリンクがあり、友人がスケートをしていて、「それにつられて、私もやってみようか」と練習に通うようになったという。

高校受験のために中学3年で一度スケートから離れた。京都府立鳥羽高校時代、卒業後は就職を考えていたが、3年のときに「自分は何をしたいんだろう」と考えると、それはやっぱりフィギュアスケートだった。高校3年の夏から練習を再開した。

フィギュアスケートが本格的にできる大学を探していたところ、佛教大学のアイススケート部に惹かれ、公募制推薦入試で



### アイススケート部 フィギュアスケート部門

文学部 中国学科4年生 田川 百合香さん



国学科に入学した。「中国の時代が来るだろう」というのは少し意識してました」と彼女。部活とは別に個人でコーチに付き、滋賀県立アイスアリーナで週5回は練習に励む。ジャンプに磨きをかけて、国民体育大会代表になるのが今の目標だ。「ノーマスでの演技を目指したい。ジャンプやスピンの綺麗に決まったときは内心『ヤッター』と思います」。

「私は何でもあまり真剣に考えず、つい成り行きに任せてしまふ・・・」と謙遜するが、しっかりと結果を出している。佛教大学生のカラーについては「私を含めてみんな結構個性的。でも大学は新学科も出来て、進化していると思います」。悩みはアイススケート部のフィギュア部門の部員が少ないことで、新入部員獲得が最大の望みだという。スケート以外には、Kポップと漫画「ワンピース」にはまっている。

実家は京・和騨獨製造・販売の老舗「中村ロソク」。今年から蠟燭をはじめ和雑貨を扱う店「おつかいもの本舗」も始めたという。「卒業したら家業を助けて」と言われているが、将来はスケートのコーチなどスポーツの道に進みたいと思っている。



大手バネメーカーの「日本発条」で働きながら、高校教諭を目指して頑張る一方、学友会の滋賀支部長として学生たちの世話をする多忙な毎日を送っている。

滋賀県甲賀市の県立水口高校を卒業して、家近くに工場がある「日本発条」に就職した。通信教育部には2007年4月に入学。「やっぱり大学進学に憧れがありました。通信というコースもあるのだと知り、やってみようかと……」。

会社では品質保証課で完成したバネの検査を担当。コイルバネやスタビライザーなど自動車の部品が多く、東日本大震災の復興需要が今年秋ごろから本格化し、勤務も忙しくなっているという。入学当初は教職につこうとは考えていなかったが、学ぶうちに教諭になりたいと思うようになった。「あまり優秀な学生ではなくて、教職課程をとったのも遅れましたから」と話すが、母校での教育実習も決まり、来年度の卒業を目指している。卒業論文は、奈良時代の大仏建立をテーマにするつもりだ。指導を受けているのは、古代仏教史が専門の中井真孝教授。奈良の大仏として知られる盧舍那仏は当初は紫香樂宮があ

った甲賀市に建設されることになっていった。梅田さんの出身地に近く、興味を持っていたテーマだ。

毎月の学習会では、後輩の相談も受ける。「通信教育課程では人生的に経験が豊富な方が多いので、25歳の私からは後輩という感じは全くなくて、同じ学生

### 地元で高校教諭を目指して 「通信課程の広い交友で世界が広がった」

文学部 人文学科日本史コース5年生 梅田 貴文さん

### 通信教育部学友会滋賀支部長



滋賀支部役員のみなさんと(前列左から2人目が梅田さん)

こちらが大学のことを少しよく知っているだけです」と謙虚に話す。佛教大学の学びについては「論理立てていろいろと教えてもらえる事がいいですね。小さな頃からお墓参りもする普通の家ですので、仏教について違和感がなかったこともありますが、仏教も好きになりましたね」。

趣味は音楽で、高校時代の同級生とギター2本の男性デュオを組んでいる。「コブクロ」が好きで、彼らの曲や自分たちのオリジナル曲などを街角やイベントで披露してきた。ただ、今は時間がなかなか取れないのが悩んだ。

後輩には「まず学友会の役員になってほしい」と勧める。「若い世代はどうしても『自分、自分』という傾向があり、無償で人のためにという気にならないかもしれません、役員になると全国に仲間が出来て世界が広がりますし、楽しいこと多いと思います。何より学生さんたちの相手をするのは、将来何らかの形で返ってくると思いますので、自分のためでもありません」と強調した。



### Teacher's Story-2 「教員養成の未来を読む」

教育学部教育学科  
原 清治 教授  
●はら きよはる

私達が参加して、先生のお話(講演)をお聞きしました。

※宗教教育センター選書「法輪」に掲載予定のため、著作権上の問題が発生いたしますので、教授の話を踏まえての私達の感想を交え、記載致しました。

私達が参加して、先生のお話(講演)をお聞きしました。

原清治先生は、現代日本の教育の教員養成の在り方について取り上げられた、その「教員養成」先生の質を如何に高めるかでした。これまで大学4年間勉強がずっと続いています。しかし、4年間では、足りないのではないかと、6年間では、教員養成は14年間ではなく、6年間に必要があるのではないかと、さまざまな教育機関で話しているそうです。

しかし、原清治先生の考えは、4年間から6年間に「長くすれば良い問題なのか。それが本当に正しい教員養成の在り方なのか」と疑問に思っているといっています。確かに、原清治先生も、長く育成期間を要すれば、たくさん目深い知識が付くとして、賛同はしていました。一方で、子供は、その知識だけでは対応できないとも言われています。「荒れる子供」が話題になっている昨今、子供と真正面から向きあえる先生が減っているのではないかと考えています。



原清治先生

### Student's Voice-2 初めて参加した感想を聞きました。



「初めて、朝の朝礼に参加しました。」

現代社会学科4回生  
横地 大樹さん  
●よこち ひろき

なぜ、参加してみようと思いましたか? —  
もともと、朝のおはなしをしているのは知っていましたが、4回生になって、せっかく佛教大学にいますので、参加してみようと思いました。  
初めて参加、どうでしたか? —  
僕は、小さいころ、名古屋の保育園でお経を何度も聞いていたので、懐かしい感じがしました。心が清らかになると、落ち着く感じが朝から感じられて良かったです。  
ちなみに、今朝の教育のおはなしを聞いてどうでしたか? —  
僕は教師にはならないですけど、教師じゃなくても当てることだと思いました。育成期間を長くしても、良い教師になるとは限らないとお話されて

いましたが、僕はこれから社会人になりますが、どれだけキャリアを積んでも、相手を思いやる気持ちは期間ではなく、常にどんな時でも考えて行動しなくてはいけないということを改めて学びました。  
学生にPRするなら —  
1回は参加してみて、動行を体験してみたり、その後の先生方のお話を聞いて、いろんな事を感じてほしいです。朝が早いですが、1限に授業がある人は是非参加してみてください。  
最後にひとこと —  
朝が早いですが、遅刻も防げますし、参加して1限を受けるという習慣もアリだと思いました。1回でも良いので参加してみてください。

### なうな掌話 その五 社会調査士って何だろう



佛教大学社会学部では「社会調査士」の資格が取得できることを、知っていますか? 聞いたことがない人が多いと思いますが、「調査の企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習し、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、問題点を指摘する」(社会調査協会)という資格です。  
授業の始まりや終わりに生活などのアンケートに答えた経験がある人も多いでしょう。それが、この資格取得の実習なのです。皆さんも、調査の方がアンケートを求めてきたら、是非協力してあげてください。また、この資格取得に興味がある人は是非チャレンジしてください。社会学部の2回生からチャンスはあります。(駒村)

### Teacher's Story-1 「この身今生において度す」

文学部日本文学科  
田中 典彦 教授  
●たなか のりひこ



人間は、苦しみ的人生というものが必ず原因を持って表に出てきます。その苦しみの原因という最たるものは、心=識というものによって執着していることです。その原因は自分の精進・努力によって失くすことができるのです。そうしたら、あなたに期待できる道は二つあります。一つは、この世の中で悟りを開くことができる(=この身今生において度す)。それでもあなたに、煩惱が残るのなら、二度とこの世の中に帰ってこないかのどちらかです。つまりすべては、皆さんの心によって成り立っているのです。例えば、蛇が嫌い……、怖い……と思う人もいます。しかし、インドでは蛇が怖いという表現はしません。蛇から怖いと表記します。なぜなら蛇というものを怖く作っているのは、皆さんの心なのです。蛇を根拠に怖さの理由を作っているのは、皆さんの心なのです。

私達が参加して、先生のお話(講演)をお聞きしました。

仏教に親しんで、もう一つの目的。林俊光先生(はやししむつ) 朝のおつとめの行事は、仏教に親しんで頂くことが第一です。また、いろいろな先生に話を聞いて、少しでも宗教についてかかわって頂きたいと言っています。先生も学生も宗教について、身近に感じてもらい、また学生にとっては、多くの先生のお話を聞く事で、たくさん何かを感じてもらいたいと思っています。意外な発見も見つけて欲しいです。一回は来て



「仏教に親しんで、もう一つの目的」 林俊光先生

# 佛大なう NOW!

取材・編集 駒村友哉 山元陽介

みなさんも平日の午前8時半から礼拝室での朝のおつとめとおはなしは知っているでしょう。でも参加したことのある人は意外に少ないのでは。今回はその魅力に迫りたいと思います。



山元陽介さん

### Student's Voice-1 ほぼ毎朝参加している感想を聞きました。

「ほぼ、毎日朝のおつとめに参加しています。」



現代社会学科3回生  
加藤 英高さん  
●かとう ひろたか

なぜ、朝のおつとめに参加しているのですか? —  
8時半に毎朝、学校に来ることで、遅刻とかを防げますね。僕の場合、ほとんど1限目から授業があるので、朝礼に参加することが1日の始まりというか、習慣になっています。  
初めて参加した時の感想は —  
動行を聞くことで、心が落ち着くことが分かりました。後は、聞く時も読む時も、背筋をピンっとしなくてはいけないので、姿勢も良くなりますね。そして、先生方のお話はとても魅力的なお話が多いです。先生方のお話は、10分間なのですが凄くためになります。

参加していない学生にPRを —  
全学部学科の先生方がローテーションでお話を下さるので、本当に貴重だと思います。僕は現代社会学科なのですが、他学部学科の先生方のお話を聞く機会は、これ以外ほとんどないので、いろんなお話を聞くことができるのが魅力です。  
最後にひとこと —  
1回は参加してみて、動行を体験してみたり、その後の先生方のお話を聞いて、いろんな事を感じてほしいです。朝が早いですが、1限に授業がある人は是非参加してみてください。

### なうな掌話 その四 二条キャンパスのカフェテリア



「あむりた」って知ってる?

紫野キャンパスのみなさんは、もう二条キャンパスのカフェテリア「あむりた」を利用しましたか? 先日初めて二条キャンパスに行った際に利用しましたが、紫野の学食と比べるとすごくお洒落な雰囲気です。席数も多く、お昼の時間をすらすらと比較的人も少ないので心ゆくまでリラックスして、ご飯や友達との会話を楽しめます。バイキング形式で、自分の思う量を食べられ、満足すること間違いなしです。是非一度、二条キャンパスに足を運ばせてみてください。(山元)

### 編集後記



社会学部 現代社会学科4回生  
駒村 友哉さん  
こまむら ともや



佛教大学ならではの行事を紹介しましたが、魅力を感じ取って頂けたでしょうか? 誰でも参加することができるので、記事を読んで少しでも参加してみたいと思って頂けたら嬉しいです。今回は宗教課の方をはじめ、教授、学生の皆様のご協力があったり取り組むことができました。思い通りに進まず、挫折そうになったことありますが、本当に皆様に支えられて完成することができました。いろんな想いが込められた内容となっていますので、1人でも多くの方に読んで頂けたら嬉しいです。(駒村、山元)



社会学部 現代社会学科4回生  
山元 陽介さん  
やまもと ようすけ





「密着! 野間ゼミ」教員・研究紹介

「最後の踏ん張り」を学生に言いつけ聞かせるのは、野間先生の学生への肉親のような愛情からなのだろうと感じた。

ヴァーをテキストに選んだのも、日常で使う英語で書かれているところが大きいですね。哲学書などではなく、実際に使われている実用英語なんです。しかもカーヴァーは口語的表現が実に上手です。簡単な単語で感情の豊(ひだ)まで表現できることが学べます。分かりやすい構文で言葉の背後の意味も潜ませながら書いています。定期的にペーパーテストも実施している。テスト

は嫌という気持ちもゼミ生にはあるかもしれませんが、英語力を高めるために単語を多く憶えてほしいと思います」と話す。そして、「あらゆる言葉の背後には、隠された意味があるということを学んでほしい。それは、この社会で生きていくうえで大切なことだと思いますから。福島第一原発の事故でも、政府は『直ちに健康への影響はない』という言葉をよく使いましたが、その背後の意味こそが重要でした」と語る。

若い人は、努力するということに格好悪いと思う傾向があると感じているという。「努力することは決して格好悪くないと教えています」といい、一方で「大学でまじめに勉強して、社会に出ようとする学生が就職できないことがあるという今の日本はおかしい。ゼミでも一人か二人がなかなか決まりません。なんで、こんないい子が就職できないのか、と怒りみたいなものを感じる時があります」。

ある日の野間ゼミ 「頼りになるお父さんのような先生」

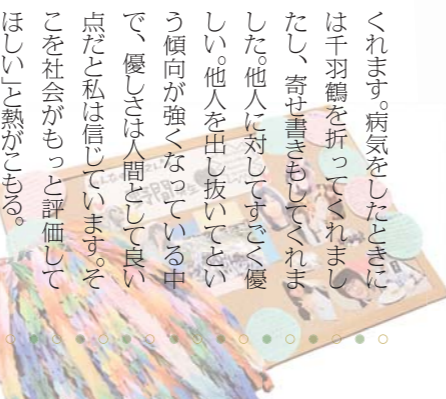
この日はカーヴァーの短編“A Small, Good Thing”を読み込む内容。直訳すれば「小さな、いいこと」となるが、村上春樹は「ささやかだけれど、役にたつこと」と訳している。

登場人物は、独身の中年を迎えたパン屋さんと若い夫婦。パン屋さんはケーキの注文にも応じていて、何千個も結婚式や誕生日のケーキを焼いていたが、自分には無縁だった。一方、若い夫婦には幼い息子がいて誕生日の月曜の日にケーキを取りに行くことにパン屋さんに妻が注文していたが、息子が交通事故にあい意識不明の重体になり取りに行けない。パン屋さんは電話を入れるが、事情を知らない夫と行き違いになり、いたずら電話と取られ、その後は実際に嫌がらせの電話もするようになる。水曜に息子がなくなり、夫婦はその夜中にパン屋さんを訪ねる。息子が死んだことを知り、パン屋さ

んは「私の人生は孤独だった。嫌がらせの電話は許されないかもしれないが、私にできることは焼きたてのパンをごちそうすることしかできない。人々にものを食べさせる仕事でよかった」と語る。

ゼミ生に聞くと、「飾らない英語、今も使われる言い回しで日常生活が淡々と描かれ、そこから作者の意図を読み取ることが楽しみ。文法的には誤った表現も出てきます。また、そのことに意味があったりします」「ゼミ生によって同じ英語の構文でも微妙に訳し方が違います。個々人の日本語の語彙の違いや考え方の違いで意味の取り方も変わり、そこをみんなで議論するのがとても勉強になります」と話す。また、野間先生の講義については、先生の米国での経験を交えて話すのが好評で、「シアトルからニューオーリンズまでの列車の旅などの話があって面白い」と講義の厚みを感じさせる。

最後に、先生に席を外してもらって先生について



聞くと、「学習では本当に丁寧に教えてくださいますし、就職活動のことでも学生のことを真剣に考えてくれていると思います」「プライベートでも相談に乗ってくれる頼りになるお父さんのような先生です。自身でも、授業をすることが好きとおっしゃっているように、楽しんで講義されているので積極的にゼミに出ようと思いますし、真剣になれます」。先生の欠点については、「予習をさぼってきて怒られるのが当然という場合にも、『とにかく読んでみなさい』と優しく言ってくれる、ちょっと甘いところかな」と話していました。



Professorial Seminars

小説や演劇に新しい視点から鋭い解説を加える研究者・批評家として知られ、一般にも多くのファンを持つ野間正二先生。大学では学生たちに「優しいお父さんみたい」と慕われている。研究室を訪ねて、ゼミ活動や佛教学生について聞いてみた。

文学部 英米学科教授 野間 正二



「佛教学の学生には十分な学力や能力が備わっているのだから、やればできると思いますが、ですから何事にも最後の踏ん張りというものを身につけてほしいと教えています」と語る。

野間先生は『白鯨』のメルヴィルの研究に始まり、サリンジャーが1951年に発表し、世界の若者の支持を受けてつづけている小説『ライ麦畑でつかまえて』を戦争PTSDという新しい切り口から研究し、さらに最もアメリカ的な小説『グレート・ギャツビー』をも戦争体験をキーワードにして読み解き、それぞれ著作のかたちで発表し

「英語を正確に読むことが第一」  
そして、  
言葉の背後の意味を知る



野間 正二(のましようじ) 1949年生まれ。大阪市立大学大学院博士課程中退。京都大学博士(文学)。京都府立大学文学部教授を経て、2007年4月から現職。専門はアメリカ文学、比較文化。著書に『キャッチャー・イン・ザ・ライ』の謎をとく』『グレート・ギャツビー』の読み方(いずれも創元社)、『小説の読み方論文の書き方』(昭和堂)、『芝居もおもしろい!』(近代文芸社)など。

お邪魔したゼミは、4回生が所属している人気ゼミだが、就職活動や教育実習などで全員がそろうことは少なくなってきた。ゼミでは、現代米文学を原書講読している。今はレイモンド・カーヴァー(注)の短編小説集『Where I'm Calling From』(ほくが電話をかけている場所)を取り上げている。

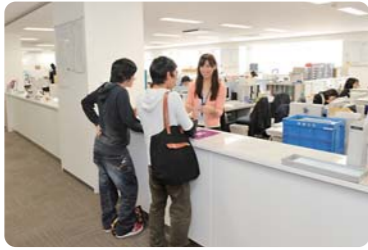
野間ゼミで力を入れていくことは、英語を正確に読むことだ。米国で現在日常的に使われている単語や表現も学ぶ。そのうえで、言葉の裏側に隠された意味をくみ取り、また、小説の登場人物の心情や米国の文化への理解へと進む。野間先生は「カ

14年間勤めた京都府立大学から、4年前に佛教学に変わった。理由は「府立大で図書館長に任命されて、管理職の道が予想されたからです。もう少し本を書いていたという気持ちがあった。そんな時のお誘いでした。任期が残っていたので、府立大の先生方には叱られました」と笑った。ただし、現在は自分のための本は一時中断して、佛教学部通信教育部で使う教科書『米文学研究』を書きあげ、『米文学史』に取り組んでいる。

野間先生は「カ」

2011 December B-ism レイモンド・カーヴァー(Raymond Carver 1938年~1988年) 米国の小説家、詩人としても知られる。米国西海岸のオレゴン州に生まれ、カリフォルニア州立大でジョン・ガードナーに学ぶ。カリフォルニア大学バークレー校の客員教授を務めた。米国中流家庭の孤独感やあやうい情愛などを描き、短編小説の第一人者としてファンが多い。全ての作品を村上春樹の訳で読める。

2F  
事務室



学生課・教務課・教職支援センターをワンフロアに配置し、学生生活・履修・実習など、学生の大学生活をサポートしています。

新しくなった  
紫野キャンパス1号館に  
おいてよ!



3~5F  
教室



毎日の講義で使われる教室は、ゼミなどに利用される小教室から、パソコンが備えられた教室、大教室までさまざま。受講者数や用途によって振り分けられています。

5F  
和室



日本の民族衣装である「きもの」について学ぶ「伝統文化(和装)」や日本の伝統仏教文化のなかの一つである「茶道」について学ぶ「伝統文化(茶道)」などについて学びます。



いろいろな教室が  
たくさん!!

5F  
家庭科実習室



幼稚園教諭・小学校教諭・保育士を目指すにあたり求められる教材研究について、製作実習を通して実践的に学びます。

# 更なる教育環境の充実を目指して、 紫野キャンパス整備計画に 着手しています。

紫野キャンパス リニューアル



## 「身と心を癒すキャンパス」 キャンパスの理念

「還愚の思想」に基づき、地にしっかりと足をつけ、ありのままの姿を見つめ直すことができるキャンパス。そこに、身と心を癒す真の安らぎが宿ります。

紫野キャンパスを核として二条キャンパス、園部キャンパスをトライアングルに繋ぐ本学の紫野キャンパスは、京都の歴史文化をフィロドとした住宅街に立地し、その背景を活かした教育環境を保持しつつ、教育研究の学舎(まなびや)として現在もその使命を果たしています。しかし多様化した社会や学生のニーズに対応するためには、更に充実した教育研究環境の整備が必要となりました。

**紫野キャンパスの整備**  
— 伝統ある知の集積拠点として —  
教育環境の向上を目指し、平成20年度より紫野キャンパス整備計画に着手しています。整備の目標として次の4点を掲げています。  
● 紫野キャンパスの自然環境を活かした、キャンパスアメニティーを醸し出します。

● 建学の精神の具現化のシンボルとして礼拝堂(らいはいど)を建築し、「身と心を癒すキャンパス」の要となります。

● 少人数教育や情報教育、専門教育など教育施設や福利厚生施設の更なる充実など、学生生活に快適な学習環境を構築します。

● 動線を考慮し、「コミュニケーション」が図れる適切な空間、事務室などを配置し、学生支援体制の充実を目指します。

これらの目標に基づき、平成23年8月には、先陣を切って1号館(第1期工事分)が竣工いたしました。地上5階、地下2階建ての建物で、3階〜5階は教室が配置され、小さなゼミにも対応できる小教室から154人まで対応できる教室や情報系教室や和室、家庭科実習室を設置しています。2階は、教務課、学生課、教職支援センターの事務室、1階には管理部門の事務室を設置しています。また、地下には公用車駐車場を設けています。



食堂

中道



完成が  
楽しみだね!

ほんと!

B-ism

2011  
December

佛敎大学通信教育部  
社会学部公共政策学科卒業  
広島県三次市長

増田 和俊さん

## 「『市民が主役』を 実感しました」

歴史を感じさせる古い市庁舎で、こやかに迎えてもらった。佛敎大学への入学の動機を聞くと穏やかな表情で、「平成の大合併で村長をしていた木村が三次市の一部になり失職しました。当時57歳。もう一度勉強したく思い、近くの大学への通学も考えましたが、佛敎大学の通信教育部に公共政策学科があつてひかれましたと語る。

旧作木村の職員、助役、村長として40年近くを過ごしただけに、行政を学び直して自身の歩んできた道を振り返るとともに、平成の大合併を検証してみたのの思いからだった。財政、福祉、教育、そして行政のトップとして現場を知っていただけに、大学の勉強は新鮮さを覚え、楽しめたという。「スクーリングで、息子や娘のような若い人たちが机を並べて、友人になるなんていう生活は想像もしなかったですよ。初めは学生食堂の隅で遠慮したり、体育・エクササイズで若い人と体を動かすのにも当惑したりしていましたが、テニスでは互角でしたし、自信がつきました。レポートは自分のキャリアで半分、新しく学んだことで半分という感じで書けましたが、試験には緊張しました」と笑う。

通信教育部の学友会活動では中国ブロック長や学友会副会長も務めた。それこそ、北は北海道から南は石垣島まで、いろいろな職業、年代の方と友人になれました。これは財産ですよと話す。

大学を卒業してから行政や政治の道に戻ろうとは思っていなかった。ところが、卒業論文がほぼ出来上がった2008年に、前市長から「是非とも副市長になってほしい」との依頼があった。別の道を考えていただけに、悩んだ末に引き受けた。ところが、前市長が公選法違反問題で今年3月に突然辞任し、家族の反対もあったが、市政の継続性を考え、支援者や前市長からも請われて市長選に立候補し当選した。

選挙では「市長の給与カット」「市長交際費の見直し」「若い世代からの副市長登用」を掲げた。「若い世代の登用を掲げ、実際に41歳の副市長を国土交通省から迎えました。これは佛敎大学で若い人たちの故郷や日本を思う気持ちに触れたからです。また、ずっと行政か



## 佛敎大学で学んだことが 今の行政の原点



増田 和俊(ますだ・かずとし)  
1946年、広島県生まれ。65年、広島県立三次高校卒業。66年に同県作木村職員になり、同村助役などを経て、99年に同村市長。2004年に合併により失職。08年に三次市副市長、11年4月から現職。04年に佛敎大学通信教育部社会学部公共政策学科に入学、08年に卒業した。

ら視点で働いてきましたから、ゼロベースの一市民として佛敎大学で学んだことで改めて市民が主役であるというところを確認できた意味は大きかったと思います。今の私の市政は佛敎大学で学んだことが原点ですよと語る。

インタビュアーのあと、市庁舎とは対照的に現代的な設備の第三セクターが運営する「三次ワイナリー」や、市の「みよし運動公園野球場」などを案内してもらったが、気軽に交流する増田さんと市民との距離はとても近いように感じられた。

広島県三次市  
中国地方の中央、広島県北部に位置し、人口約5万8000人。1954年に市制施行。2004年の平成の大合併で三次市と作木村など1市4町3村が新設合併し新しい三次市となった。ブドウやナシ、マツタケの産地として、また、霧の町、雲海の町としても知られる。  
スポーツ、特に野球が盛んで広島カープの監督を務めた門前眞佐人をはじめ、二岡智宏、福原忍、田中大輔、大田泰示、永川勝浩、荻英心、永川光浩らプロ野球選手を輩出している。

## favorite



「北北西に進路を取れ」  
ブルーレイ ¥2,500(税込)  
DVD ¥1,500(税込)  
ワーナー・ホームビデオ

岡崎先生が大のお気に入り  
ヒッチコックの  
「北北西に進路を取れ」

先生のお気に入り  
北北西に  
進路を取れ

第二回  
社会福祉学部 社会福祉学科教授  
岡崎 祐司 先生の巻

この作品もお気に入り

**9 to 5**  
(邦題：9時から5時まで)

1981年公開のコリン・ヒギンズ監督作品。嫌な上司をやっつけようと、巨大企業で働く3人のOLが繰り広げるブラック・コメディの秀作。社会や企業にありがちな問題点を風刺した脚本の良さはもちろん、OL役のジェーン・フォンダ、リリー・トムリン、ドリー・パートンの個性と演技力が魅力。「高校生のときに観たのですが、3人の活躍のおかげで働きやすくなったオフィスを表現する見事なワンシーンで、主演のジェーン・フォンダを尊敬するようになりました」(岡崎先生)



映画の面白さと  
醍醐味を満喫！

「オープニングから10分観ただけで、映画の面白さや醍醐味をこれほど満喫させてくれる作品はありません。痛快冒険活劇という表現がぴったりの作品です」と岡崎先生。なかでも好きなシーンは、「なんととってもラストでしよ。詳しく話すと、観たときの感動が薄れるので止めておきますが(笑)。観客をあざむくように、期待どおりの痛快なラストシーン。ヒッチコックならではの演出だと思います。また、オープニングにヒッチコックが登場する場面など、彼らしい「いたすら」がちりばめられているのも印象的です」



Listen UP OB・OG訪問  
Favorite 「先生のお気に入り！」



アルフレッド・ヒッチコック  
その人と作品

本名はアルフレッド ジョゼフ ヒッチコック(Sir Alfred Joseph Hitchcock 1899年~1980年)。イギリスの映画監督、映画プロデューサー。1939年からは、おもにアメリカで活躍。特にスリラー映画で成功し、製作、脚本、編集、美術も手がけた。「サスペンス映画の神様」、「スリラーの巨匠」、「映画界の帝王」などと呼ばれ、現在でも熱狂的なファンが多い。

電信会社から字幕デザイナーを経て、25年に監督デビュー。34年の「暗殺者の家」からスリラー専門となる。「レベッカ」、「知りすぎた男」、「北北西に進路を取れ」、「サイコ」など多数のヒット作を生み出す一方、テレビ番組「ヒッチコック劇場」のパーソナリティを務め、スリラーの代名詞として世界的な名声を得る。

### STORY

あらすじ

ある男が「間違われる」ことをきっかけに大事件に巻き込まれ、冒険を繰り広げるというヒッチコック監督のお得意のストーリー。

広告会社を営む主人公ロジャー・ゾーンヒル(ケーリー・グラント)は、ふとした偶然と勘違いで「ジョージ・キャプラン」という人物に間違えられ、謎の男たちに郊外の邸宅へと連れ去られる。そこで待ち受けていたのはある仕事の依頼だった。当然、ロジャーはなんのこともさっぱり分からない……。そのことをきっかけに、常に生命の危機に晒されながら、ロジャーの全米を股にかけた冒険が始まる。



岡崎 祐司(おかざき ゆうじ)  
専攻は福祉政策論、地域福祉。学生とのコミュニケーションではツイッターをフル活用。10月30日のホームカミングデーの先生の講演に100名を超える卒業生が集まり、OB・OGパワースタッフに圧倒された。

入試種別	出願期間	入学試験日	試験会場
一般入試A日程	〔郵送〕1月6日(金)～1月18日(水) (入試部持参)1月19日(木)	<b>2月1日(水)・2日(木)・3日(金)</b>	本学(紫野キャンパス)・東京・金沢・名古屋・彦根・福知山・大阪・神戸・奈良・和歌山・米子・広島・高松・福岡
一般入試B日程	〔郵送〕2月10日(金)～2月19日(日) (入試部持参)2月20日(月)	<b>3月5日(月)・6日(火)</b>	本学(紫野キャンパス)・名古屋・彦根・大阪・神戸・岡山
大学入試センター試験利用入試(前期)	〔郵送〕1月6日(金)～1月11日(水) (入試部持参)1月12日(木)	◎センター試験日 <b>1月14日(土)・15日(日)</b>	※個別学力検査等を実施しません。
大学入試センター試験利用入試(後期)	〔郵送〕2月10日(金)～2月28日(火) (入試部持参)2月29日(水)	◎センター試験日 <b>1月14日(土)・15日(日)</b>	※個別学力検査等を実施しません。

**BUまなび隊(公開講演会)開催予定**

※BUまなび隊は通信教育課程地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	場所	会場	講演内容	教員
2012年(平成24年)1月21日(土)13:00～16:00	名古屋	ウイंकあいち(愛知県産業労働センター)	●講演:「学校と子ども」の事実 ― これまで・今・これから ― コミュニケーションする力、集団の機能を読み取る力、他とかわりながら自己表現する力、適切な言語運用を可能とする力、これらはずべての学習にとって基礎的な力です。しかし、これらの力が学校においてどのように指導され、学習者はどのように習得しているのかという事実は見えにくいようです。学力観も大きな転換点を迎えています。学習指導要領も新しくなり、「新学力観」もある程度定着してきました。全国学力調査や、OECDの学力調査(PISA)などで今の日本の学校の新たな課題も浮かび上がってきました。このような転換期に、改めて「学校の事実」について考えてみたいと思います。第1部は、逢富洋二が社会言語学的アプローチにより、「これまでと今」を質的な事実をもとに語ります。第2部は、原清治が社会学的アプローチより、「今とこれから」を量的な事実をもとに語ります。	原 清治(教育学部教授) 逢富 洋二(教育学部准教授)
1月28日(土)13:00～15:00	東京	TKP東京八重洲カンファレンスセンター	●講演:ふろしきの文化 仏教と西洋の宗教の特色とはどのようなものでしょうか。例えば東洋的な持物のふろしきは中身に合わせて包んで用います。また一定の大きさがある西洋のカバンは中身を入れて用います。「包む」と「入れる」果たしてこの違いはどこから来たのでしょうか。この違いを一例として、仏教と西洋の宗教の特色について述べてみたいと思います。	福原 隆善(仏教学部教授)
2月18日(土)13:00～15:00	福岡	FFB福岡ファッションビル	●講演:ひよっこりひょうたん島 われわれの眼は、いつも外を向いています。その為外のことや他人のことはよく見、よく知っているのです。さて、自分自身のことはどうでしょうか? ひょうたん島とはどこのこと? そこに住んでいながら、国民が自分の国が一体どこに向かって進んでいるのか解っていないどこかの島国のことですよ。一度眼をひっくり返して見てみないと。	田中 典彦(文学部教授)
2月18日(土)14:00～16:50 ※通信学友会静岡支部主催の教科学習会を公開しています。	浜松	ホテルクラウンパレス 浜松	●講演:「半学半教」の生涯学習 ― 学習ボランティアのすすめ ― 学ぶということは自分のため、と思われがちである。しかし、学習の成果は地域社会などに還元してこそ、本人にとっても地域住民にとっても学びは喜びとなる。例えば現在、学校支援地域本部事業では生涯学習の成果が学校の授業、課外活動などで有効に公開され、子どもたちやゲストティーチャーは学びがいて、働きがいを感じています。歴史を遡れば、その精神は「半学半教」とよばれ、学習者同士、学習者と指導者とが学びを享受していた。浜松出身の賀茂真淵もその弟子・本居宣長も、宣長の弟子たちも「半学半教」を進め、学習の成果を公開していました。再生可能エネルギーが求められている時代、生涯学習もまた「知の循環型」の学びが要請されています。	白石 克己(教育学部教授)

宗教文化ミュージアム ■ 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL(075)873-3115

日時	公演内容
2012年(平成24年)1月28日(土)14:00～	●第14回シアター公演 法然上人800年大遠忌記念 佛教大学開学100周年企画 「日本の音楽・世界の音楽 アジア大乱調―民族音楽と手拍子―」 解説/小野田 俊蔵(本学歴史学部教授、本館館長) 出演/トルコ・韓国・インドの打楽器奏者
2月6日(月)～3月4日(日)	●冬期特別展示 法然上人800年大遠忌記念 佛教大学開学100周年企画 「研究の肖像―佛教大学ゆかりの先生と研究ノート―」

**B-ism** 2011 December

2011年師走にB-ism No3を刊行することができました。今年を振り返ると、やはり東日本震災が衝撃的な出来事でした。多くの命が失われ、多くの被災者を生みました。この出来事を私たちは絶対に風化させてはならないのです。そんな中、11月に国賓として来日された、プーチン・ワンチュク国王の立ち居振る舞いに「人」としてのあり様を見たように思います。人と人とはつながっている。私たちがすべきこと。今、あなたにできること...

佛教大学広報課

**B-information**  
みんなの掲示板  
2012年 主な行事予定

**修正会・始講式**  
Date: 1/5 (thu.)

**同窓会提供講座「人間」**  
Date: 1/28 (sat.)

本学卒業生の岡崎弥生氏を講師として「回り道〜人との出逢い、ふれあい〜で育まれ、やっとスタートラインに〜」をテーマに講演いただきます。  
場所/佛教大学四条センター  
TEL(075)231-8004

**入学式**  
Date: 4/1 (sun.)  
平成24年度

**学位記・卒業・修了証書授与式**  
Date: 3/25 (sun.)  
平成23年度  
(第12回前期大学院、第56回前期学部)

**学位記・卒業・修了証書授与式**  
Date: 3/14 (wed.)  
平成23年度  
(第44回大学院第60回学部第34回別科(仏教専修))

**美山フォーラム**  
Date: 2月中旬  
場所/南丹市美山文化ホール  
本学と南丹市、美山まちづくり委員会の三者が主催し、美山の地域活性化を目的に、中山間地域のまちづくりの課題について、美山の魅力や可能性をテーマに開催する予定です。

**読者プレゼントのお知らせ**  
佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。  
※佛米!夢乃酒のご応募は20歳以上限定です。

スクールバス特注 トミカ 10名様

佛米!夢乃酒2010 (300ml) 10名様

オリジナルタオル 10名様

佛教大学 100th Anniversary

**ピックアップ ニュース**

**ON AIR NOW ON AIR!**  
**B-ism Radio!**  
SUN 20:30 - 21:00 KYOTO 89.4MHz

佛教大学放送局の学生がDJを務める番組「B-ism Radio!」がエフエム京都(a-STATION)にて2011年11月よりスタートしました。

この番組は、2012年に開学100周年を迎える「佛教大学」の「今」「これから」、そして「人と人とのつながり」や「絆」などを通じて勉学、教育、サークル、スポーツ、カルチャーにまつわる軌跡や将来の夢に繋がるさまざまな活動をヴァラエティに富んだゲストを招きながら、紹介していきます。"輝き"をもった今の佛教大学の魅力を、ぎゅっと凝縮した30分番組です。  
放送は、毎週日曜日 20:30～21:00。 Check it out !